

オノ・ヨーコ 記者会見

2005.10.4

ニッポン放送イマジン・スタジオ



Photo: © Jack Mitchell

ジョン・レノンの没後 25 周年、生誕 65 周年にあたる 2005 年、10 月 4 日（火）「ニッポン放送イマジン・スタジオ」で行われた『ジョン・レノン音楽祭 2005 実行委員会』主催によるチャリティー・コンサート『Dream Power ジョン・レノン スーパー・ライヴ』の記者会見には、コンサートの提唱者であるオノ・ヨーコさんと LOVE PSYCHEDELICO が出席した。過去 4 回のコンサートの売上金からアジア・アフリカに 42 校の小・中学校が建設され、今年も新たに 8 校が加わり、学校の建設数は目標の 50 校を達成する。

「今度が 5 年目のコンサート。本当に感慨深いです。初めは学校を建てるなんて、子供たちが嫌がるんじゃないかと思ったけれど、子供たちが喜んでくれる姿を見て、自分が勘違いしていたんだと思いました。今後でもまた 10 年、20 年と続けていくことでどんどん広まっていけばいいと思っています」と、まずヨーコさんのコメントが伝えられた。質疑応答に入ると、今回初めてソロ・パフォーマンスを披露するヨーコさんは「ちょっと恥ずかしいような気もしてます…」とはにかみながら、「ジョンの曲だけでいいんじゃないかなと思ったんですけども、今回このような機会を与えられたので、暴力でもっていろんなことを解決していくという世の中がどんなに虚しいことかということを歌った私の曲『I Want You To Remember Me』と、まずヨーコさんのコメントが伝えられた。前回に続き、コンサートの会場となる日本武道館については「初めてジョンがビートルズと一緒にやった所ですからね…」と、感慨深げなヨーコさんの表情も印象的だった。

『愛と平和』を提唱するジョンの精神を引き継ぐヨーコさんは、先頃アメリカを襲ったハリケーン“カトリーヌ”の被害に対しても「黙って静かに」という姿勢で、「送金したお金を直ぐに食物に換えられて、直ぐに困った人たちに渡せる」というチャリティーに協力しているようだ。また、世界中の子供たちにも「今は科学的にもいろんなことが発見されている、病気なんて無くなるような凄惨な世界が直ぐそこに待っているのだから、希望を持ってどんでん一緒にやってみよう」と、力強くポジティブに語りかけてくれた。そして、「もしジョンが生きていたら？」という問いには「彼は暴力による解決が非常に嫌いだものですから、やっぱり生懸命『愛と平和』を訴えていると思いますよ」というヨーコさん。“ジョンの魂”は、現在もしっかりと受け継がれている。また、生前ジョンは「ボールに比べて、僕の歌はカヴァーされるのが少ない…」と、凄くこぼしていたとの秘話も明かしてくれた。「あなたの曲は歌詞も難しい、あなたしか歌えないような歌だから、皆に敬遠されるんじゃないの？」と慰めたそだが、何とも微笑ましい夫婦の会話だ。だが、「簡単な歌じゃないか」とけなされたこともあるという「イマジン」を例に挙げ、「本当に大事な優しいメッセージを伝えていきたいという気持ちで作った歌」の大切さを語り、「ジョンに『あなたの歌は今も皆に歌われ続けているわよ』って言ってあげたい！」というヨーコさんのことばに、思わず胸がジーンと熱くなった。そして、ジョンと息子のショーン君とサイクリング等をして過ごした軽井沢での一時を、「あれは親子で過ごした本当に楽しいイベントだった」と、懐かしげに語ってくれた。

最後に、今の日本の音楽シーンについて「今の日本の音楽界、特にロックは凄いとしますね。誇りに思ってます。でも、アメリカとかヨーロッパではほとんど知られていないんですよ。音楽はどこでも盛んであるっていうことは非常に大事なことだから、それを共有したいっていう気持ちも凄くあるんです。音楽っていうのは、ヒーリングの力や何かを治す力があるんですよ。そういう意味で、その破壊的なになっている世の中を音楽でカヴァーしていくことも大事なんだと思います。日本の音楽界の人たちもどんでん世界に進出していただくというと思いますね。…でも、進出しなくてもいいんですよ。何故かっていうと、音楽を作っていることによって、そのバイブレーションっていうのが必ず世界に動いて影響を与えているわけですからね」とのコメントをくれ、毎年行われるこの『ジョン・レノン・スーパー・ライヴ』でも、「出演してくれるアーティストの皆さんがとてもいい顔していっしょにやりますね。その姿を見ると『嬉しいなあ』と思います」と優しく語ってくれた。魅力的な笑顔とチャームアップな一面も魅せてくれたヨーコさん。とても 72 歳とは思えない若々しさだ！ あのジョンが惚れた理由を改めて実感！！



10 月 7 日（金）の『Dream Power ジョン・レノン スーパー・ライヴ』に先立ち、オノ・ヨーコさんが出席した記者会見に参加させて頂いた「The Walker」。Jazz がメインの雑誌ながら、この場に立ち会えたことに大変な誇りを感じているが、実は John & Yoko と Jazz には深い縁がある。

オーネット・コールマンが参加した『Yoko Ono/Plastic Ono Band (*)』、マイケル・ブッカーが参加した『Feeling The Space (*)』、『Season Of Glass』、そのマイケルが、兄ラディとブッカー兄弟で参加した『A Story』。トニー・ウィリアムズが参加した『Starpeace』(注：(*) はジョンも参加した作品) など、ヨーコさんのソロ作品に大物ジャズマンが参加していることは意外に知られていない。そして、ヨーコさんの感性は、オーネットを代表とする Free Jazz の感覚に通じるものがある。(The Walker 編集部)

ジョン・レノン音楽祭 2005

Dream Power ジョン・レノンスーパーライブ

2005.10.7 @ 東京・日本武道館

取材 & 文：加瀬正之

John Lennon, The Beatles ゆかりの地に日本のトップ・アーティストが結集！
偉大なるロックンローラー、ジョン・レノンのナンバーを歌う感動のステージ！！

“生涯一前衛芸術家” Yoko Ono の真髄を見た！

「ブッ殺してやる！」「やめて！ 許して！
誰か助けて！」「うう…」「あああ…」

武道館に響き渡るヨーコさんの叫び声…。
客席を埋め尽くした約 8,000 人の観客は、
その迫力に完全に圧倒されていた。

このコンサートの終盤、この日一番期待して
いた瞬間がやって来た。今回が自身初と
なるソロ・パフォーマンスを披露したヨー
コさんのステージ。曲は 2001 年にリリース
したヨーコさんのソロ・アルバム『Blueprint
For A Sunrise』からのナンバーで、ドメス
ティック・バイオレンス (DV) をテーマにした
「I Want You To Remember Me」。

このソロの話題を記者会見で聞いた時は
曲名の感じから、しっとりとしたバラード調
のナンバーを連想してしまっていたが、正直、
度肝を抜かれたと共に感動して、何だか凄
く嬉しくなっていました。72 歳にしてこのエナ
ジー！そして、凄まじいオーラ！！その
昔と変わらぬ前衛アーティストぶりに心底
恐れ入った。

日本語の歌詞に身ぶりを交えて、歌を演
じ切るヨーコさん。10 代～20 代の若い世
代の観客、ヨーコさんの“前衛アーティスト”
の部分を知らない若い世代の観客たちは、
完全に魂を抜かれた様子を見開きステ
ージに釘付けにされていた。

彼等にとってもこの約 10 分間のステ
ージは、“衝撃”と言えるほど貴重な体験にな
った筈だ。まさに“Power To The People”を
目の当たりにした瞬間だった。

いきなりヨーコさんのステージから取り
上げたが、オープニングの「Rockn' Roll
Medley」から感動の連続だった。総勢 13
組のアーティストが登場したが、個人的に

は、ジョンのトレードマークでもある黒いリッ
ケンバックカー（日本公演の曲目付）を弾き
ながら「A Hard Days Night」、「Dizzy
Miss Lizzy」を熱唱し、ひたすらいい味を
出していた奥田民生。パワフル & 流石の声
量で「Power To The People」、「Woman
Is The Nigger Of The World」を披露した
小柳ゆき。そして、ジョンの名盤『ダブル
ファンタジー』から「I'm Losing You」,
「Woman」、「(Just Like) Starting Over」
を披露した YOSHII LOVINSON は良かった。
YOSHII は翌日に 39 歳の誕生日を控
え、来年から本名（吉井和哉）での活動を
宣言したが、参加アーティストの中で一番黄
色い声援を受けていたのが彼だった。

そして、忘れてならないのが初登場とな
った野島清志郎の存在。ギター一本での
「Nowhere Man」。日本語によるオリジナ
ルの歌詞で歌った「Mother」と、“戦争を
放棄して平和のために尽くす”と記されてい
る日本国憲法 9 条を取り上げ、「ジョンみた
いじゃないか！憲法 9 条を自慢しよう！！」
と呼びかけ、「夢かも知れないでもその夢
を見てくれるのは君ひとりじゃない仲間が
いるのさ…」と熱唱し、ギターも弾きま
くった「Imagine」を披露。こんなにシンプ
ルでストレートに心に訴えかけてきた日本語
の歌詞は久しぶりだ。

本人も“難しい歌”と言っていた
「Watching The Wheels」を見事に歌い
切った BONNIE PINK. 「Real Love」、「Cold
Turkey」、「Oh Yoko」で 2 人の個性を出
していた LOVE PSYCHEDELIC といたっ
若い世代のアーティストも、“ジョンの魂”
を次世代へ伝えてくれる大きな役目を果た
した。また、最近ではアメリカの「中心
ネットワーク」で放送され、子供を中心に人
気を呼んでいる番組『Hi Hi Puffy AmiYumi』
でも話題の PUFFY は、「Lucy In The Sky



Photo: © Joe Takano/Produce Centre Co., Ltd.

With Diamonds」、「Whatever Gets You
Thru The Night」を歌ったが、2 人のあ
の独特のほのぼのの感が曲とマッチしてい
て良かった。

曾我部恵一はユニットで、「Hold On」と
「Across The Universe」をシャウト！ウッ
ドベースとサクソスとのトリオというシンプ
ルな編成で聴くジョン・ナンバーは新鮮だ
った。大のジョン・レノン & ビートルズフ
ァークとしても有名な杉真理も「Tell Me
Why」、「Glow Old With Me」を熱唱し、
相変わらずの爽やかさで会場全体に爽快
感を届けられた。また、このコンサートの
屋台骨を支えていたジョン・レノン スー
パー・ライブトリビュート・バンド“Dr.
Winston O' Boogie”<杉真理、土屋潔
(g)、和田春比古 (key)、古田たけし (ds)、
松尾“モンゴル”英樹 (key, cho)、押
葉真吾 (b)> の演奏も最高だった。その
中でも、「Clipped Inside」、「Baby Please
Don't Go」の 2 曲でソロによるヴォーカ
ルも披露した押葉真吾の歌声は、5 人目
のビートルズとも言われる名プロデュ
サー、ジョージ・マーティンにも称賛さ
れたと言う通り素晴らしい、ほぼオリジ
ナルに忠実なプレイを聴かせてくれた土
屋潔のリード・ギターもいびり銀の存在
感を放っていた。

歌声こそ披露しなかったが、「ジョン
とヨーコの出会い」や「Mind Games」,
「Imagine」



Photo: © Joe Takano/Produce Centre Co., Ltd.

“R&R Medley”でコンサートがスタート！



Photo: © Teppal/Produce Centre Co., Ltd.

“R&R Medley”のラストは“Stand By Me”を熱唱！



Photo: © Teppal/Produce Centre Co., Ltd.

ヨーコさん初のソロ・パフォーマンス！



Photo of John & Yoko: © Jack Mitchell

を朗読した小泉今日子。後半の進行役として登場した宮本亜門も長丁場のコンサートを要所で引き締めた。ただ代わる代わる歌い続けるのではなく、途中で「ジョン・レノン・ヒストリー」やプロモーション・ビデオの映像を交え、ダラダラ感を感じさせない演出も効果的で、感動を呼んだ。そして、ハイライトの一つであった光のアートを作る「ONOCHORD（オノコード）」による「愛と平和」のメッセージ。アリーナへスタンドを埋め尽くした入場者全員にプレゼントされたペンライトによる「I LOVE YOU」のサインを点灯するというアイデアは、いかにもオノ・ヨーコらしく、このシーンも感動的だった。

ONOCHORD



© YOKO ONO 2005

ラストは出演者全員で「Imagine」を合唱。「Happy Birthday! John !!」という祝福の声に日本武道館が包まれ、ヨーコさんを先頭に、今後ジョンの遺志を継ぎ、このコンサートを継続していくことを約束してくれた。…もし生きていれば、2日後の10月9日で65歳となっていたジョン。そして、25年前に凶弾に倒れていなければ、ソロとしてこの日本武道館のステージに立つ予定だったジョン。武道館の屋根を突き抜け、遠い空の彼方から優しく微笑むジョンの笑顔が見えてくるような最高の夜だった。

今後は、是非ジャズ・シーンからのアーティスト参加を期待しながら、兩上がりの夜空に輝く大きな玉ねぎを後にした…。

Photo: © Joe Takano/Produce Centre Co., Ltd.



Photo: © Teppei/Produce Centre Co., Ltd.

<演奏曲目 & アーティスト>

0. DJ【開演前のご案内】(ニッポン放送 亀瀬昭信)
1. Rock'n Roll Medley: Twist And Shout~Slow Down~Slippin' And Slidin'~You've Really Got A Hold On Me~Mr. Moonlight~Be Bop A Lula~Money~Please Mister Postman~Rock And Roll Music~Stand By Me (忌野清志郎、奥田民生、押葉真吾、小柳ゆき、杉真理、曾我部恵一、YOSHII LOVINSON、LOVE PSYCHEDELICO)
2. Revolution (BONNIE PINK)
3. Tell Me Why (杉真理)
4. Lucy In The Sky With Diamonds (PUFFY)
5. A Hard Days Night (奥田民生)
映像【ジョン・レノン・ヒストリー前半】
6. Hold On (曾我部恵一ユニット)
7. Across The Universe (曾我部恵一ユニット)
プロモーション・ビデオ【ジラース・ガイ】
8. Real Love (LOVE PSYCHEDELICO)
9. Gold Turkey (LOVE PSYCHEDELICO)
10. Oh Yoko (LOVE PSYCHEDELICO)
11. Whatever Gets You Thru The Night (PUFFY)
【ジョン・ヨーコの出演】〜「イベント・ゲームス」朗読【小泉今日子】
12. Power To The People (小柳ゆき)
13. Dizzy Miss Lizzy (奥田民生)
14. Watching The Wheels (BONNIE PINK)
15. Glow With Me (杉真理)
16. Glimped Inside (押葉真吾)
映像【ジョン・レノン・ヒストリー後半】
17. Baby Please Don't Go (押葉真吾)
18. Woman Is The Nigger Of The World (小柳ゆき)
19. I'm Losing You (YOSHII LOVINSON)
20. Woman (YOSHII LOVINSON)
21. (Just Like) Starting Over (YOSHII LOVINSON)
22. 【世界が100人の若者たちから「Imagine」朗読】(小泉今日子)
23. Nowhere Man (忌野清志郎)
23. Mother (忌野清志郎)
24. Imagine (忌野清志郎ユニット)
【オノ・ヨーコ紹介】(宮本亜門)
25. I Want You to Remember Me (オノ・ヨーコ)
26. Mind Games (全員)
27. Happy X'mas (全員)
プロモーション・ビデオ【イマジン】
28. Imagine (全員)
映像【ジョンが振り廻る映像】



Photo: © Joe Takano/Produce Centre Co., Ltd.
ONOCHORDによる「I LOVE YOU」のサイン



Photo: © Teppei/Produce Centre Co., Ltd.
天国のジョンに贈る「Happy X'mas」



Photo: © Teppei/Produce Centre Co., Ltd.
全員で「Imagine」を歌い感動のフィナーレへ